

2011 経済教育ワークショップ（札幌） 報告

- 1 とき 2011年8月6日（土） 9：30～17：00
- 2 ところ キャリアバンク・セミナールーム
（札幌市中央区北5条西5丁目7番地 Sapporo55 ビル 5階）
- 3 内容概略

1) 本年度3回目の札幌での経済教育ワークショップであった。

参加者は、36名。ネットワークからは篠原代表、大竹文雄先生が基調講演並びに提言の講師として参加され、演習等の助言者として千葉県立松戸向陽高等学校（前文部科学省教科調査官）の大倉泰裕先生、信州大学の栗原久先生、北海道教育大学の濱地秀行先生が参加された。

2) 主催者挨拶

開会に際して篠原代表から主催者挨拶として、当ワークショップが金融広報中央委員会、北海道金融広報委員会の協力をえての開催であること、また従来は中学校向けと高等学校向けを別日程で開催していたものを今回一本化して開催することなどが説明された。

さらに、午前中の大竹文雄先生の基調講演について、講師の紹介も含めた案内がなされ、基調講演後の提言に関しては「金融」をテーマとする今回のワークショップの「中学・高校で金融をどう教えるか」というねらいも示された。午後のグループ演習についても、北海道の企業を素材として取り上げようとする趣旨と、教科書等の提供協力をいただいた清水書院への謝辞、北海道21世紀総合研究所・北洋銀行の協力への謝辞が述べられた。

最後に、経済教育ネットワークへの入会案内で結ばれた。

3) 基調講演（大竹文雄先生）

一時間という短い時間ながら、中学校・高等学校で市場経済をどう教えるか、指導する上でよく問われる質問や疑問、さらには誤解されている事例などをあげながら解説された。

まず高校の教科書では市場経済についてわずか4ページ足らずしか配分されていない点を指摘した上で、経済学の見方・考え方が十分に理解されていない現状をいくつかの事例を交えながら取り上げ、指導する際の注意が促された。

今回については主に市場経済に絞り込み完全競争の時の価格決定と独占があったり市場の失敗がある時の価格決定について、その定義や考え方を正しく理解した上で生徒に対して説明したり指導することの必要性が指摘された。

また、分配問題と効率性を分けて考えること、市場競争が効率的であることなどをプロ野球とプロサッカー選手の例をあげながら解説された。需要曲線・供給曲線に関しては「よくある質問・疑問・誤解」を紹介しながら経済学の見方・考え方を示し、さらに最低賃金制度や市場の失敗についても留意すべき点が述べられた。盛り沢山の講演内容であった。

4) 提言

篠原代表によって、今回のワークショップの核となる「金融」で何を教えるか、さらに「金融」で生徒は何を学ぶのかについての提言が行われた。

冒頭、大竹先生の基調講演に関連して教育現場の実際を理解されている代表から参加者の理解を一層深めるための情報提供も行われた。

提言としてはまず、「経済」で何を教えるのか、「経済」学習で目指すことについて、経済社会の「分業と交換」の仕組みを理解させることが示された。現代の「分業と交換」の仕組みの概念図をもとに、新学習指導要領にも加えられた「ルール」等についても解説が加えられた。金融の働きについても概念図を用いて俯瞰的な理解が説かれ、市場経済と金融について中学校と高等学校の教科書の取扱いについて現状とその問題点が指摘された。また、中学校と高校で教えるべき事柄を明確にするために、用語「お金」の使われ方の問題点、貨幣や金融政策についての学習内容の整理が指摘された。考え方のモデルとして「もしも〇〇がなかったら・・・」といった想定や、「手元に10万円が入ったら何に使うか」といった問いかけなど考える力を引き出しながら経済を教える工夫も紹介された。

中学校・高等学校における現状を踏まえた上で、そもそも金融の働きとは何かについて、「金融」とは現在の所得と将来の所得の交換であること、この考え方にもとづく教え方の提案が行われた。交換や取引が成り立つ仕組みやその働きが求められる社会の仕組みについて、陥りやすい誤解も指摘しながら述べられた。仕組みを学ぶ意義を示した上で、直接金融の役割とルールや規制を必要とする問題点について、また株式ゲーム教材の使い方について注意すべきことなど、金融学習全般について留意すべき点も指摘された。

5) 金融広報委員会からの情報提供

北海道金融広報委員会事務局斎藤秀人氏から、金融教育に関する配付資料の説明があった。金融教育関連の各種教材についての紹介と第7回金融教育を考える小論文コンクールにおいて、北海道教育大学・北洋銀行金融教育プロジェクトが優秀賞を獲得されたことも披露された。このプロジェクトには今回助言者となっている濱地秀行先生も参画されていた。

6) グループ演習

昼食をはさみ午後のプログラムとして、参加者が3つのグループに分かれて「金融」単元の指導案を作成し代表者が「模擬授業」の形で発表する演習が行われた。

はじめに札幌市立啓明中学校の山下豊先生から演習の課題と取り組みの要領について説明があり、3つのグループ分けが行われた。参加者には中学校の社会科公民と高等学校の現代社会と政治・経済の教科書（清水書院提供）とそれぞれの新学習指導要領の該当部分のコピー並びに資料集の抜き刷りが配付された。また教材研究の課題に関連して北海道の企業に関する資料も配付された。

課題としては「金融」に関する1時間分の指導案を作成し、授業の実際を再現する形（10分間の模擬授業）でその成果を発表するとした。目的は「金融」を指導する際の「素材の教材化」と「指導方法の工夫」などについて参加者の創意工夫を共有化するものであった。

「金融」のどの部分を取り上げるかでなかなか意見の集約が難しかったようであるが、中学校と高等学校の教員が共同して授業プランを協議し、プレゼン用のシート1枚を約40分間の作業時間の中で仕上げていった。

午前中の篠原代表の提言や配付資料を基にしたがらの教材研究を企画したが、課題の絞り込み不足と配付資料の読み込みの時間不足が演習の過程で指摘されたため、サンプルを示す形で急遽川瀬の方で一例を作成し（Dグループ）グループ発表のはじめに提示した。

次のようなA～Dグループの4つの指導案についての発表が行われた。

Aグループ：ラーメン店を起業するとして、各自が100万円をもっているものとして、資金の融通を仕組みや役割を設定しながら体験的に学習させる。

Bグループ：「進学資金を自分で調達してみよう」という課題を与え、どのような手だてで資金を調達するかを考える中で、銀行等の金融機関の役割を学習させる。

Cグループ：道内企業の成長の過程をたどりながら、その間にかかわった「金融」を指摘し、金融の役割について学習させる。

Dグループ：道内企業の成長の際に「もしも〇〇がなかったら」という問いかけから銀行の役割を導き出し、金融の背景にある「信用」などの理解を導く。

午後の参加者が少なく、3グループのみの編成となったがそれぞれにうち解けて協議がすすめられていた。その成果の発表については当初企画していた「模擬授業」という形式よりは想定する生徒を示しながらグループごとに協議の過程で出された意見等を披露する形での報告となった。

7) 講評とコメント

発表後、3名の助言者の先生方から次のような提言を含めた講評とコメントがあった。

大倉泰裕先生から

社会科・公民科の改訂について詳細については別の機会とするが、考えたことをわかりやすく表現する力を身に付けさせることが盛り込まれている。公民的分野における経済の考え方・見方については、持続可能な社会をつくるための課題を考えさせる中で生産や金融などの働きや仕組みを理解させる。制度や仕組みを当然あるものとして教えるのではなく、なぜあるのか、もしなかったら、なぜそのような仕組みが・・・などを問うていく。政治的分野の背景にある国民主権という概念、経済的分野であれば公正と効率、これらをしっかりと踏まえることが大切。「金融」をテーマとして指導案を作成する場合、借りる側と貸す側の立場を選択しその立場にしたがって考えさせることができる。中学校と高校では自ずから指導パターンも違い、指導事項もさることながらその展開についてそれぞれの発達段階に応じた工夫と配慮が求められる。いずれの場合も何を指導するのかを明確にすることが大切。

Aグループについて、銀行の役割に焦点を当てたロールプレイの指導方法で、銀行にお金を預けるという預金の部分も加味していくとよい。Bグループについて、高校であれば講義形式も成り立つが中学校段階であれば身近な話題からのストーリー展開の工夫が生徒の理解を引き出す。Cグループについて、高校段階を想定して体系的な役割や仕組みの理解を図る展開となっているが、中学校段階であれば、その意義や意味を学ぶような問いかけや展開の工夫も必要。全体を通して、中学校と高校のそれぞれの指導案や指導方法を出

し合うことによってその違いが明確化されてくる。機会を捉えてさらに情報を共有化していくことが大切。

栗原久先生から

グループ発表をうけて一括して、3点の切り込み口からの提言内容も含んだ講評がなされた。冒頭パワーポイントのスライドで紹介された20ボンド紙幣の裏面に記されたアダムスミスの肖像画と『諸国民の富』の一節には参加者一同興味を引かれた。

①「体験だけでは学習にならない」経済では何を教えるのかという整理が必要。「〇〇で(手段)△△を(ねらい)」という整理が必要。様々な教材が提供されているがそれらはいくまでも手段であって、ねらいの部分つまり経済についての見方や考え方を明確にしていくことが教材研究の際には重要となる。

②「”わかったつもり”の罠から抜け出す」高校の教科書の記述は難解でありそもそも理解が難しい。しかし中学校の教科書は一見わかりやすい平易な文章表現となっている。ここに実は落とし穴がある。”わかったつもり”の罠に引っかからない指導が必要である。

③「活用は難しい」新学習指導要領に盛り込まれている「習得」「探究」「活用」という概念について、実はこの「活用」はなかなか難しい。難しいことを踏まえての教材研究なり指導方法の工夫が求められている。

濱地秀行先生から

先に紹介された「金融教育を考える小論文コンクール」の受賞実践について、残念ながら金融教育が大学生に対しても十分に浸透していない状況に対して、企画された実践報告であることが披露された。大学で担当されている公民科教育法にもふれながら、現実の問題を見なければ単に仕組みを教えても十分な理解には至らないことが指摘された。

グループ発表の全体を通して、金融教育の必要性和授業展開においては何らかのストーリーを描きながら生徒の理解を図っていくことの有効性が述べられた。また高校の教科書に記載されているキーワード(金本位制など)について大学生レベルでもその理解が不確かである実態についても指摘された。

8) 閉会挨拶

川瀬(札幌開成高等学校)より参加者並びに今回のワークショップ開催に際してご支援いただいた関係機関、そして篠原代表をはじめとする経済教育ネットワーク関係者に謝辞を述べた。さらに、2月と6月の2回のワークショップをうけて今回3回目のワークショップを札幌で開催しながら、①北海道に経済教育ネットワークの輪を広げること、②中学校と高等学校の垣根を越えた共同の取り組みを展開していくこと、③北海道発の教材開発に向けた取り組みに挑戦すること、についても述べ閉会の挨拶とした。

(文責:川瀬)

参加者のアンケート回答より（自由記述部分の回答） ※同一番号は同一の回答者

Q 各プログラムの内容について、疑問点・難しかった点、又は運営についてご意見がありましたらご記入下さい。

③グループ演習の講評コメントについて、各グループごともっと一つずつつこんでもらえると思っていました。実践するならこんな風に・・・といった風に。

（高校 担当：地歴公民）

④大倉先生のお話のような話は、多くの先生が聞かなければならない内容だと感じました。参加者が少ないのが残念です。（高校 担当：地歴公民）

⑤経済学の専門用語をなるべく平易な言葉に置き換えて下さるとさらに理解のスピードがあがると思いました。（中学校 担当：社会）

⑥模擬授業は、事前準備の時間が充実していれば良かったと思いました。

（中学校 担当：社会）

⑧グループ演習はやはり難しかったです。しかし、やる意義はあると思います。

（中学校 担当：社会）

⑨グループ演習はもう少しやるべきことを絞りやすいように詳しいガイダンスが必要だと思う。資料（ニトリ）は分量が多すぎて消化しきれなかった。

（大学 担当：ファイナンス）

⑩「分業」や「投資」は政治経済よりも地理で大きく扱います。金融リテラシーを少し扱っている家庭科も含めて、他教科も視野に入れてはと思います。

（高校 担当：地歴）

Q 今後このようなワークショップやセミナーに参加される機会があったら、どのようなテーマや内容をご希望ですか。

①キャリア教育の中に、経済教育をどのように位置付け、どのような取り組みをしたら良いか。（中学校、担当：数学・キャリア教育）

②昨日、技術・家庭の道研研修で、ものづくり、最適解、トレードオフ、産業というキーワードが出て参りました。外部の方と接点を持つことは難しいけれども良いことであると思いました。道研の講師は学習指導要領解説の主筆者の大西有先生でした。

（中・高 担当：技術・家庭、家庭科）

⑤市場のメカニズムについて、専門外の者にも分かりやすく教えていただけたらと思います。

⑦外国為替など近年の金融をめぐる状況について（高校 担当：政経、倫理）

⑧篠原先生や大倉先生のお話をもっとお聞きしたい。

⑩「奨学金」です。現在の制度は低金利ローンの形をとっていますが、中所得以上の家計はメリットを理解して、たくさんの申込みがありますが、ローンの仕組みを理解していない低所得家計の生徒は申込みを避ける傾向があります。金融教育が必要です。

Q その他、ご意見、ご要望がありましたらご記入下さい。

①キャリア教育を担当していて、どのように推進したらよいかを模索している中、今回のワークショップの案内が目にとまり、参加させていただきました。篠原先生の「分業と交換」の話などは、キャリア教育の中でも取り上げられるべき大切な話と思いました。

②授業で押さえるべき内容を再確認させていただきました。金融・経済の実態を理解するため、本質に迫っていない現行の教科書だけでは無理があることが大変良く伝わってきます。毎回楽しみにしています。ありがとうございます。

④中学校教員とのワークショップなどを通して、連携を深めることで、学習内容を共有し、スムーズな引き継ぎをしていかなければならないと感じます。

⑥金融で重視するポイントが少し分かったような気がしました。どうもありがとうございます。

⑧会員の負担感があまり大きくならないように工夫していただきたい。相互の人的交流の機会としても、その存在意義はあると思います。

⑩講演の時間をもう少し長くしてほしい。